

岡山後楽園で能をたのしむ会



能が描く古代神話の世界
賀茂の神々の舞づくし

能
賀茂
山崎浩之

令和元年 **10月5日(土)**

正午 開場 13:00 開演 (16:00終演予定)

岡山後楽園能舞台

主催 岡山県郷土文化財団 協力 観世流 藤々会

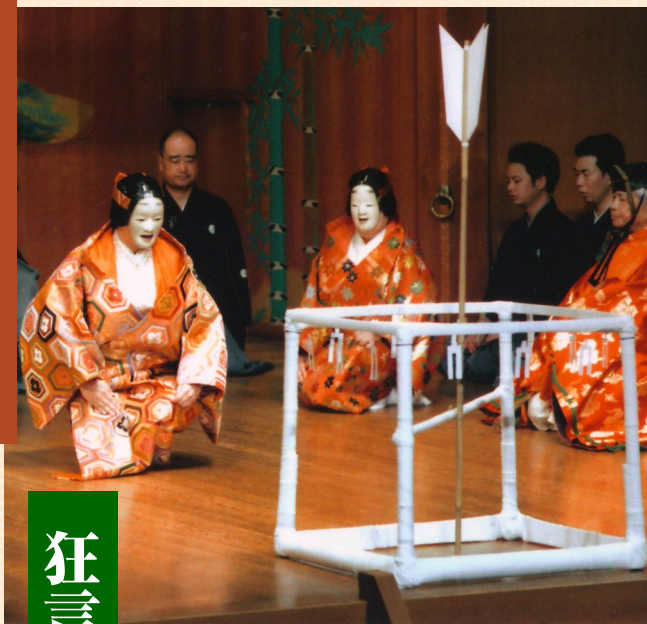


写真 ウシマド撮影

狂言
棒縛
茂山千五郎

わかりやすい!
能の解説付き

鑑賞料 (税込み) **全席自由**

一般 / 3,500円
郷土文化財団会員 / 3,000円
(前売券のみ岡山後楽園入園券が付いています)

※ご入場は小学生以上の方とさせていただきます。
※車いすを使用される方は、あらかじめ主催者にお申し出下さい。
※場内でのビデオ・写真撮影及び録音等は固くお断りいたします。

鑑賞券のお求めは

観世流 藤々会 ☎090-2358-9651
岡山後楽園 ☎086-272-1148
ざんざやプレイガイド ☎086-222-3244
天満屋ハステーションチケットセンター ☎086-231-7733
岡山県郷土文化財団 ☎086-233-2505

お問い合わせは

公益財団法人岡山県郷土文化財団
〒700-0822 岡山市北区表町1-7-15 702号
TEL 086-233-2505 FAX 086-232-4329 E-mail: o-bunka@utopia.ocn.ne.jp

会場では、お弁当・お茶の販売をいたしませんのでご注意ください。

岡山県郷土文化財団では、「岡山後楽園で能をたのしむ会」を開催いたします。

28回目となる今回は、能「賀茂」を取り上げました。

由緒ある岡山後楽園の能舞台上で繰り広げられる能の世界を存分にご堪能ください。

番組

棒縛

狂言

次郎冠者 茂山千五郎

主人 田賀屋夙生

太郎冠者 茂山 茂

後見 井口竜也

仕舞

桜 川クセ

福代綏子

玉之段

山崎美紗子

忠度

観世芳伸

独吟

駒之段

藤井千鶴子

能「賀茂」解説

京都府立大学教授 山崎福之ほか

〈休憩 十五分〉

二時半頃

能楽

里女 山畑美雪

天女 三木成弘

里女・別雷神 山崎浩之

賀茂

室明神 従者 大坪賢明
の神主 江崎正左衛門

大鼓 森山泰幸

太鼓 梶谷義男

間 末社ノ神 井口竜也

味方 團

後見 深野新次郎

地謡 浦田親良

田中隆夫

山崎美紗子

深野貴彦

観世芳伸

越賀隆之

付祝言

四時頃予定

「賀茂(かも)」は、『山城国風土記』に記された、賀茂の社(上賀茂神社と下鴨神社)の祭神の由緒を語る祝言の曲。

水無月(陰暦六月)の頃、播磨国室の明神(兵庫県たつの市)の神職が都に上り賀茂の社に詣でる。見れば川辺に壇を築き、白木綿(幣)に矢を立てている。神職が御手洗川の水を汲みに来た女たちにその言われを尋ねると、女はその矢こそこの社のご神体とも言うべきものと教え、賀茂の社の由緒を物語る。昔、賀茂の地に住む秦の氏女が川を流れ来た白羽の矢を拾い上げて帰り、軒に挿しておいたところ思わず懐妊し、男子を生んだ、その子が三歳になった時に父の名を尋ねると、その矢を指し、天に昇って神となった、それこそ別雷神(上賀茂神社の祭神)であり、その母もまた御祖神(下鴨神社の祭神)となったのであると。

そして数々の都の川の流れの清らかさを讃え、濁りなき神の御心として水を汲み、自らその神であること

を明かして消えてしまう。
(中人)

やがて御祖神が妙なる天女の姿で現われて優雅に舞い(天女之舞)、続いて別雷神が天地を揺るがして出現し(舞働)、稲妻とともに雷鳴を轟かせ豪壮に舞って、五穀豊穰を寿ぎ国土を守護する神徳を現わしたのである。

「棒縛(ぼうしばり)」

いつも留守の間に召し使う者たちに酒を飲まれてしまう主人。

まず次郎冠者を呼び出して太郎冠者を縛る策を練り、太郎冠者の両手首をまんまと棒に縛りつける。そしてすかさず次郎冠者も後ろ手に縛り上げ、これで安心と出かけていく。

二人はやがて、縛られていても手の先は動くことに気づき、酒壺を開けて互いに飲ませ合う。二人がすっかり酔い、いい気分で謡い舞って興じていると……。